

国文学国語学科 カリキュラムマップ(2025年度入学生)											
ディプロマ・ポリシー	次のような知識や能力を備えた学生に学士(国文学)の学位を授与します。 ①論理的に思考する力を身につけている(思考) ②日本の文学や言語に関する知識を身につけている(知識) ③コミュニケーション能力を身につけている(態度) ④新たなものを生み出す創造力を身につけている(創造) ⑤新たな知見の発信力を身につけている(行動)										
	科 目 名	授業形態	配当 年次	単位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要				
							①	②	③	④	⑤
国文学基礎演習	演習	1	2	文学作品を読みこなすための切り口(研究方法)を学んだうえで、任意の作品から問題点をみつけだし、それを解決するという文学研究の基礎となる一連の作業を演習形式でおこなう。	1.文学研究のために必要とされる基礎知識と方法を習得し、提示された課題やレポートに援用できる力、専門分野で必須とされる資料の所在を知り、調査に活用できる。 2.みずからの力で問題点を発見することができる。 3.発見した問題点について、適切に調査・分析、報告し、さらに根拠を明示したレポートが作成できる。	○	◎	○			
国文学概論1	講義	1	2	国文学がどのような学問であるかを学ぶ。各ジャンルについての基礎的知識、時代区分の原理や研究方法、作品成立当時の政治や生活等についての知識を身につける。	1.国文学について、基礎的な知識や用語などを学び、それを説明できる力、基礎的な理念や方法などを習得し、実際の作品を調べ解説できる。 0.基礎的な知識や方法などを生かしながら自主的に学修する態度を身につける。	◎	◎				
国文学概論2	講義	1	2	国文学を学んでいくために必須の、基礎的な知識や方法を学ぶ。とくに国文学の礎となった国学と国学者、作品における主題と構想、文芸思潮、典拠・出典について学ぶ。	1.国文学について、基礎的な知識や用語などを学び、それを説明できる力、基礎的な理念や方法などを習得し、実際の作品を調べ解説できる。 1.基礎的な知識や方法などを生かしながら自主的に学修する態度を身につける。	◎	◎				
上代文学講読1	演習	1・2	2	上代の文学作品を読解し、その作品の特質について考察する。作品や作者の歴史的・文化的背景をふくめて解説する。さらに読解した作品についてプレゼンテーションをおこない、作品の理解を深める。	1.取りあげた上代の文学作品を正確に読解できる力、読解した作品についてプレゼンテーション形式で解説できる。 2.上代の文学作品について、レポートの形式によって論述できる。	○	◎	○			
上代文学講読2	演習	1・2	2	上代の文学作品を読解し、その作品の特質について考察する。作品や作者の歴史的・文化的背景をふくめて解説する。さらに読解した作品についてプレゼンテーションをおこない、作品の理解を深める。	1.取りあげた上代の文学作品を正確に読解できる力、読解した作品についてプレゼンテーション形式で解説できる。 3.上代の文学作品について、レポートの形式によって論述できる。	○	◎	○			
中古文学講読1	演習	1・2	2	平安期の文学作品についての基礎的な知識を講義形式で概説する。また、取りあげた作品の背後にある歴史を踏まえて読解する。さらに、その作品が成立した背景や、文学史上の意義などについて考察する。	1.取りあげた平安期の文学作品の構想や表現の特徴を踏まえつつ、その内容を十分に説明できる。 2.変体仮名を読む能力を養い、日本文化の特性について理解を深める。	○	◎	○			
中古文学講読2	演習	1・2	2	平安期の文学作品についての基礎的な知識を講義形式で概説する。また、取りあげた作品の背後にある歴史を踏まえて読解する。さらに、その作品が成立した背景や、文学史上の意義などについて考察する。	1.取りあげた平安期の文学作品の構想や表現の特徴を踏まえつつ、その内容を十分に説明できる。 2.取りあげた平安期の文学作品のジャンルの方法を精確に説明できる。 3.取りあげた平安期の文学作品について、学術的な理解をし、説明できる。	○	◎	○			
中世文学講読1	演習	1・2	2	中世期に成立した文学作品を精読する。また、時代背景や文化などに目配せしつつ、その作品の特質について考察する。	1.中世文学の研究に必要な知識、文学研究のいくつかの手法を学び、それらを実践して発表できる。 2.みずから問題提起をし、考察した内容を論理的な文章でまとめられる。	○	◎	○			
中世文学講読2	演習	1・2	2	中世期に成立した文学作品を精読する。また、時代背景や文化などに目配せしつつ、その作品の特質について考察する。	1.中世文学の研究に必要な知識、文学研究のいくつかの手法を学び、それらを実践して発表できる。 2.みずから問題提起をし、考察した内容を論理的な文章でまとめられる。	○	◎	○			
近世文学講読1	演習	1・2	2	近世期に成立した文学作品を精読する。また、時代背景や文化などに目配せしつつ、その作品の特質について考察する。	1.対象となる作品の精読をととして、近世期の作品を読むための基礎知識を修得する。 2.得られた知識をもとに、対象となる作品の解釈について自身のことばで説明できる。	○	◎	○			
近世文学講読2	演習	1・2	2	近世期に成立した文学作品を精読する。また、時代背景や文化などに目配せしつつ、その作品の特質について考察する。	1.対象となる作品の精読をととして、近世期の作品を読むための基礎知識を修得する。 2.得られた知識をもとに、対象となる作品の解釈について自身のことばで説明できる。	○	◎	○			
近代文学講読1	演習	1・2	2	日本の近代文学を代表する作家の短編小説を、作品に用いられた表現の機能や時代背景との関連に留意しながら、受講者による調査・発表によって精読する。	1.近代の文学作品を読むための基礎的な知識と方法を習得する。 2.学んだ知識や方法を用いて作品の言葉や時代背景について調査を行い、資料を作成して口頭で発表することができる。	○	◎	○			
近代文学講読2	演習	1・2	2	日本の近代文学を代表する作家の短編小説を、作品に用いられた表現の機能や時代背景との関連に留意しながら、受講者による調査・発表によって精読する。	1.近代の文学作品を読むための基礎的な知識と方法を習得する。 2.学んだ知識や方法を用いて作品の言葉や時代背景について調査を行い、資料を作成して口頭で発表することができる。	○	◎	○			

ディプロマ・ポリシー	次のような知識や能力を備えた学生に学士(国文学)の学位を授与します。 ①論理的に思考する力を身につけている(思考) ②日本の文学や言語に関する知識を身につけている(知識) ③コミュニケーション能力を身につけている(態度) ④新たなものを生み出す創造力を身につけている(創造) ⑤新たな知見の発信力を身につけている(行動)										
	科 目 名	授業 形態	配当 年次	単 位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要				
							①	②	③	④	⑤
上代文学特論1	講義	2	2	上代の文学作品についての基礎的な知識を講義形式で概説する。また、取りあげた作品の背後にある歴史を踏まえて読解する。さらに、その作品が成立した背景や、文学史上の意義などについて考察する。	1.上代の文学作品についての基礎知識を理解し、説明できる。 2.取りあげた上代の文学作品を読解できる。 3.取りあげた上代の文学作品の概要や、その作品について客観的かつ論理的な文章で解説・論述できる。	◎	◎				
上代文学特論2	講義	2	2	上代の文学作品についての基礎的な知識を講義形式で概説する。また、取りあげた作品の背後にある歴史を踏まえて読解する。さらに、その作品が成立した背景や、文学史上の意義などについて考察する。	1.上代の文学作品についての基礎知識を理解し、説明できる。 2.取りあげた上代の文学作品を読解できる。 3.取りあげた上代の文学作品の概要や、その作品について客観的かつ論理的な文章で解説・論述できる。	◎	◎				
中古文学特論1	講義	2	2	『伊勢物語』の講読をつづいて、原文を翻刻するとともに語義を調べ、作品を解釈する。また、『伊勢物語』を解釈するうえで浮上する問題点について、それぞれ議論をしながら、考察する。	1.『伊勢物語』の本文を解釈できる。 2.古典作品の翻刻し、語義を調べることができる。 3.『伊勢物語』にかんする問題点を自身のことばで議論できる。	◎	◎				
中古文学特論2	講義	2	2	『源氏物語』の総合巻を原文で読み進めつつ、『源氏物語』の構想や表現をみていく。なお、『皇統・密通』など本巻で語られるテーマや『源氏物語』の研究史(近現代)についても考察する。	1.『源氏物語』についての基礎知識をまとめられる。 2.薄雲巻の内容や表現について説明できる。 3.『源氏物語』の写本の変体仮名を読む力を身につける。	◎	◎				
中世文学特論1	講義	2	2	中世期に成立した文学作品を読解し、そのような作品がなぜその時代にうまれたのか、周辺資料から考察する。講義において提示された研究方法を参考にして受講生がそれぞれの自説を展開する。	1.中世期に成立した文学作品をうみだす地盤となった時代や文化に対する知識を習得する。 2.周辺資料を読解しながら、自ら推論を立てて自説を展開する力を身につける。	◎	◎				
中世文学特論2	講義	2	2	中世期に成立した文学作品を読解し、そのような作品がなぜその時代にうまれたのか、周辺資料から考察する。講義において提示された研究方法を参考にして受講生がそれぞれの自説を展開する。	1.中世期に成立した文学作品をうみだす地盤となった時代や文化に対する知識を習得する。 3.周辺資料を読解しながら、自ら推論を立てて自説を展開する力を身につける。	◎	◎				
近世文学特論1	講義	2	2	近世期に出版された地誌の画像情報をてがかりに、そこに描かれた事物について読み解く。また、文学作品との影響関係や地誌類の文学的価値をさぐるとともに、文字情報と画像情報との相関性について考察する。	1.対象となる作品の画像情報をおとして、近世期の文化的状況とその特質を読み取る方法を修得する。 2.画像情報からみえてくるテキスト解釈の可能性を自身のことばで説明できる。	◎	◎				
近世文学特論2	講義	2	2	近世期に出版された地誌の画像情報をてがかりに、そこに描かれた事物について読み解く。また、文学作品との影響関係や地誌類の文学的価値をさぐるとともに、文字情報と画像情報との相関性について考察する。	1.対象となる作品の画像情報をおとして、近世期の文化的状況とその特質を読み取る方法を修得する。 2.画像情報からみえてくるテキスト解釈の可能性を自身のことばで説明できる。	◎	◎				
近代文学特論1	講義	2	2	明治から大正期の作家・思想家たちが、異なる文化をどのように受け止め自らの表現をつくりだしたのか、国家間の政治的・経済的関係や渡航の動機・条件などに注目しながら考察する。	1.日本の近代文学が異なる文化との交流によって形作られてきたことを知る。 2.習得した知識や研究方法を生かして論理的に考察を深め、それを口頭発表や文章で伝えることができる。	◎	◎				
近代文学特論2	講義	2	2	大正から昭和の作家・思想家たちが、異なる文化をどのように受け止め自らの表現をつくりだしたのか、国家間の政治的・経済的関係や渡航の動機・条件などに注目しながら考察する。	1.日本の近代文学が異なる文化との交流によって形作られてきたことを知る。 2.習得した知識や研究方法を生かして論理的に考察を深め、それを口頭発表や文章で伝えることができる。	◎	◎				
古典文学史1	講義	2・3	2	上代から中古の各時代の文学史について概説する。古典文学史を鳥瞰することが大きな目的ではあるが、個別の課題や問題についても講義をする。文学史に敷衍して、日本文学の形態や理念、また研究の成果も説明する。文学史を通しての「古典文学」が向き合うべき課題についても問題提起する。	1.上代から中古の文学史の全体を説明できる。 2.上代から中古の日本文学の特質を説明できる。 3.文学作品の描かれた各時代の社会的・思想的背景や価値観を説明できる。	◎	◎				
古典文学史2	講義	2・3	2	国文学研究における時代区分にしたがい、それぞれの時代に成立した文学作品を取りあげながら、歴史の変遷を概説する。本講義では、中世・近世にスポットをあて、時間の流れとテーマとにわけて論じる。	1.中世・近世に成立した文学作品に关する知識を習得する。 2.個別の問いに応答できる。 3.中世・近世に成立した文学作品について、それぞれの特質や社会的・文化的背景をとらえながら、系統だてて説明できる。	◎	◎				
近代文学史1	講義	2・3	2	明治時代初期から大正時代に至る時期の日本の文学の流れを、具体的な作品に触れながら、時代背景との関係に留意しつつ理解する。	1.明治時代初期から大正時代までの日本の文学の概略を知る。 2.様々な時代の作品を、表現の特徴や時代背景に注目しながら読むことができるようになる。	◎	◎				
近代文学史2	講義	2・3	2	大正時代後期から現代に至る時期の日本の文学の流れを、具体的な作品に触れながら、時代背景との関係に留意しつつ理解する。	1.大正時代後期から現代までの日本の文学の概略を知る。 2.様々な時代の作品を、表現の特徴や時代背景に注目しながら読むことができるようになる。	◎	◎				

ディプロマ・ポリシー		次のような知識や能力を備えた学生に学士(国文学)の学位を授与します。 ①論理的に思考する力を身につけている(思考) ②日本の文学や言語に関する知識を身につけている(知識) ③コミュニケーション能力を身につけている(態度) ④新たなものを生み出す創造力を身につけている(創造) ⑤新たな知見の発信力を身につけている(行動)								
科 目 名	授業形態	配当 年次	単 位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要				
						①	②	③	④	⑤
国文学演習(上代)1	演習	3	2	上代の文学作品について、文献を調査し、資料を作成して発表する。また、他の受講者の発表に対して質疑応答をおこなう。さらに、発表した作品について考察したことをレポートにまとめる。	1.取りあげた上代の文学作品とその文学史的な流れが解説できる。 2.取りあげた上代の文学作品の本文校訂ができ、正確に読解することができる。 3.文献調査や作品分析をもとに資料を作成し、発表することができる。 4.取りあげた上代の文学作品について、学術的なレポートの形式で論述できる。	○	○	◎	◎	
国文学演習(上代)2	演習	3	2	上代の文学作品について、文献を調査し、資料を作成して発表する。また、他の受講者の発表に対して質疑応答をおこなう。さらに、発表した作品について考察したことをレポートにまとめる。	1.取りあげた上代の文学作品とその文学史的な流れが解説できる。 2.取りあげた上代の文学作品の本文校訂ができ、正確に読解することができる。 3.文献調査や作品分析をもとに資料を作成し、発表することができる。 5.取りあげた上代の文学作品について、学術的なレポートの形式で論述できる。	○	○	◎	◎	
国文学演習(中古)1	演習	3	2	中古の文学作品について、文献を調査し、資料を作成して発表する。また、他の受講者の発表に対して質疑応答をおこなう。さらに、発表した作品について考察したことをレポートにまとめる。	1.取りあげた中古の文学作品がどのように書かれ、またどのような構想を持った作品なのか説明できる。 2.中古の文学作品の本文、表現、解釈などを提示できる。 3.研究の意義付け、研究論文の読み方、口頭発表の手順、レポートの執筆など、学術的な研究方法を身につける。	○	○	◎	◎	
国文学演習(中古)2	演習	3	2	中古の文学作品について、文献を調査し、資料を作成して発表する。また、他の受講者の発表に対して質疑応答をおこなう。さらに、発表した作品について考察したことをレポートにまとめる。	1.取りあげた中古の文学作品がどのように書かれ、またどのような構想を持った作品なのか説明できる。 2.中古の文学作品の本文、表現、解釈などを提示できる。 4.研究の意義付け、研究論文の読み方、口頭発表の手順、レポートの執筆など、学術的な研究方法を身につける。	○	○	◎	◎	
国文学演習(近世)1	演習	3	2	近世前期に成立した文学作品を精読する過程で浮上する問題点について、担当者が調査・分析し、報告する。また、それぞれの報告内容について、聴講者からの質疑・批判と、それに対する担当者からの回答・反論をおこなう。さらに、報告した内容を再検討し、客観的事実にもとづく文書を作成する。こうした一連の作業を複数回おこなうことで、批判的なものの捉え方とそれを他者に伝える技能をやしなう。	1.近世期の文学作品を対象とする研究をおこなうための知識や方法を修得する。 2.自身の力で問題点を発見し、それについて調査・分析、報告することができる。 3.報告内容を論理的な形式で文書にまとめることができる。	○	○	◎	◎	
国文学演習(近世)2	演習	3	2	近世後期に成立した文学作品を精読する過程で浮上する問題点について、担当者が調査・分析し、報告する。また、それぞれの報告内容について、聴講者からの質疑・批判と、それに対する担当者からの回答・反論をおこなう。さらに、報告した内容を再検討し、客観的事実にもとづく文書を作成する。こうした一連の作業を複数回おこなうことで、批判的なものの捉え方とそれを他者に伝える技能をやしなう。	1.近世期の文学作品を対象とする研究をおこなうための知識や方法を修得する。 2.自身の力で問題点を発見し、それについて調査・分析、報告することができる。 3.報告内容を論理的な形式で文書にまとめることができる。	○	○	◎	◎	
国文学演習(近代)1	演習	3	2	近代の文学テキストを研究するために必要な基礎的作業を確認するとともに、対象に応じた様々な研究方法を知る。その上で、近代を代表する作家たちの短編小説を題材に、みずからの関心に沿って独創性ある着想を論理的に展開することを試みる。	1.作品に応じて様々な研究方法があることを知る。 2.様々な意見を理解して柔軟に思考し、それを口頭で伝えることができる。 3.研究史を理解し、自らの着想を調査・分析の上論理的に文章にまとめることができる。	○	○	◎	◎	
国文学演習(近代)2	演習	3	2	近代の文学テキストを研究するために必要な基礎的作業を確認するとともに、対象に応じた様々な研究方法を知る。その上で、近代を代表する作家たちの短編小説を題材に、みずからの関心に沿って独創性ある着想を論理的に展開することを試みる。	1.作品に応じて様々な研究方法があることを知る。 2.様々な意見を理解して柔軟に思考し、それを口頭で伝えることができる。 3.研究史を理解し、自らの着想を調査・分析の上論理的に文章にまとめることができる。	○	○	◎	◎	
国語学基礎演習	演習	1	2	国語学における基礎的内容とそれらを実際に情報処理機器で入力したり活用したりする方法について演習する。また、データの収集や集計、分析について、情報処理機器を活用した効率的な方法について指導する。	1.国語学の基礎的・基本的内容とコンピュータを活用した国語学研究の実際について(情報処理機器を活用し検索した参考文献リストの作成やWord、Excelなどのアプリケーションソフトを使った言語データベースの作成方法や集計方法、統計分析の基礎的的操作)学び、活用できる。 2.音声記号の入力やコーパスを活用できる。	○	◎	○		
国語学概論1	講義	1	2	国語学の諸分野についての基礎知識を獲得し、とくに音韻・音声や音調、および語彙に関する研究方法やそれらの分野に特有の用語法を身につける。	1.日本語の音韻および音声の体系を理解する。 2.日本語の音調のメカニズムを理解する。 3.日本語の語彙の特徴を理解する。	◎	◎			
国語学概論2	講義	1	2	国語学の諸分野についての基礎知識を獲得し、とくに文章史や方言、待遇表現に関する研究方法やそれらの分野に特有の用語法を身につける。	1.日本語の文章の史的展開について理解する。 2.日本語の方言および方言研究について理解する。 3.日本語の敬語法の特徴を理解する。	◎	◎			
国語学特論(言語構造)1	講義	2	2	日本語文法に関する先行学説を分析してその特徴を明らかにすることとおして、文法研究の本質を理解し、文法現象について考察する姿勢を自覚する。また、文法研究史についての知識を得る。	1.著名な文法研究者について、その言語観と文法理論の特徴との関係を理解する。 2.文法研究の史的展開について知見を深める。	◎	◎			

ディプロマ・ポリシー	次のような知識や能力を備えた学生に学士(国文学)の学位を授与します。 ①論理的に思考する力を身につけている(思考) ②日本の文学や言語に関する知識を身につけている(知識) ③コミュニケーション能力を身につけている(態度) ④新たなものを生み出す創造力を身につけている(創造) ⑤新たな知見の発信力を身につけている(行動)									
科 目 名	授業形態	配当 年次	単 位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要				
						①	②	③	④	⑤
国語学特論(言語構造)2	講義	2	2	日本語のさまざまな文法現象を取りあげて、そのような現象の背後にある要因に迫り、それが文法体系の構築にとつてどのような意義を持つものかを見きわめる。	1. 日本語のさまざまな文法現象について正確に記述する。 2. その現象が、他の文法現象とどのように関連するかについて理解する。	◎	◎			
国語学特論(言語運用)1	講義	2	2	日常において身近な日本語の文章を例にとり、「てにをは」(助詞・助動詞の一部を含む)の重要性を学ぶ。	1. 日本語の運用場面において文法的な思考によって分析する能力を修得する。 2. 「構文論・統語論」の分野での専門的な研究方法を日常の現代語に対して適用できる。	◎	◎			
国語学特論(言語運用)2	講義	2	2	日常において身近な日本語の語彙を例にとり、語構成論、音節構造についての音声学・音韻論的な知識を学ぶ。	1. 語彙論・語構成論にかんする知識と専門研究の方法を修得する。 2. 日本語の語彙について、語彙論・語構成論の観点から分析することができる。	◎	◎			
国語学特論(言語実態)1	講義	2	2	ことばが変化する要因を社会言語学的視点から実証にもとづいて研究する。ここでは、日本語の変化のなかでもとりわけ、文法および音声・音韻の変化について考察する。	1. 社会言語学にかんする知識を習得する。 2. ことばの変化と社会の相関について理解する。	◎	◎			
国語学特論(言語実態)2	講義	2	2	日本各地の方言について概観したうえで、現在の関西方言全般について社会言語学的視点から考察し、その実態や変化を理解する。	1. 社会言語学・方言学にかんする知識を習得する。 2. 方言の実態とその変化について理解する。	◎	◎			
国語史1	演習	2・3	2	古代日本語の文法現象について、基礎的知識を獲得するとともに、そうした知識を実際の古典作品に適用する方法を身につける。	1. 古代日本語の未然形承接助動詞と連用形承接助動詞に関する知識を獲得する。 2. 古文が読解できる能力を修得して、古典作品に親しむ態度を身につける。	○	◎	○		
国語史2	演習	2・3	2	古代日本語の文法現象について、基礎的知識を獲得するとともに、そうした知識を実際の古典作品に適用する方法を身につける。	1. 古代日本語の終止形承接助動詞と助詞および敬語法に関する知識を獲得する。 2. 古文が読解できる能力を修得して、古典作品に親しむ態度を身につける。	○	◎	○		
国語学演習(言語構造)1	演習	3	2	日本語の文法現象について、とくに各品詞の機能や述語表現に関してその先行研究を分析して、それらの現象の本質を理解する。	1. 先行研究を博覧して、その議論の展開を理解する。 2. 文法現象の本質について理解を深める。	○	○	◎	◎	
国語学演習(言語構造)2	演習	3	2	日本語の文法現象について、とくに連体および連用の装定表現や慣用句などに関してその先行研究を分析して、それらの現象の本質を理解する。	1. 先行研究を博覧して、その議論の展開を理解する。 2. 文法現象の本質について理解を深める。	○	○	◎	◎	
国語学演習(言語運用)1	演習	3	2	日本語初級の留学生の作文に見られる「誤用」を取り上げ、なぜそれが間違っているといえるのかを考察することをとおして、日本語の持つ構造を考える。	1. 留学生の初歩的な作文の誤用をとおして、日本語の構造を理解する。 2. 誤用という現象から、他の学生と議論しつつその原因を分析する力をつける。	○	○	◎	◎	
国語学演習(言語運用)2	演習	3	2	日本語中級の留学生の作文に見られる「誤用」を取り上げ、なぜそれが間違っているといえるのかを考察することをとおして、日本語の持つ構造を考える。	1. ある程度熟達した留学生の作文の誤用をとおして、日本語の構造を理解する。 2. 誤用という現象から、他の学生と議論しつつその原因を分析する力をつける。	○	○	◎	◎	
国語学演習(言語実態)1	演習	3	2	言語地理学および社会言語学の観点から日本語の方言を取りあげ、言語データの収集と集計に関するノウハウを身につける。	1. 言語地理学と社会言語学について理解する。 2. 実際に言語データを収集し集計する技能を身につける。	○	○	◎	◎	
国語学演習(言語実態)2	演習	3	2	言語地理学および社会言語学の観点から日本語の方言を取りあげ、言語データの分析方法や、分析結果の解釈に関する知識と技能を身につける。	1. 言語地理学と社会言語学について知見を深める。 2. 実際の言語データを分析してその背後にある要因を解釈する。	○	○	◎	◎	
漢文学基礎演習	演習	1	2	漢文を構成する漢字についての理解を深め、日本語と漢語の関係性について、また、漢文学に対する概論的な知識や、漢詩文を読解するにあたって必要な文法や返り点の仕組みについて、それぞれ解説する。辞書の引き方、返り点、文法について、ワーク等をおとして学修する。	1. 漢詩文の読解に必要な基礎的な知識、日本語と漢字の関係について理解できる。 2. 辞書を引きながら漢詩文を訓読できる。	○	◎	○		

ディプロマ・ポリシー	次のような知識や能力を備えた学生に学士(国文学)の学位を授与します。 ①論理的に思考する力を身につけている(思考) ②日本の文学や言語に関する知識を身につけている(知識) ③コミュニケーション能力を身につけている(態度) ④新たなものを生み出す創造力を身につけている(創造) ⑤新たな知見の発信力を身につけている(行動)										
	科 目 名	授業 形態	配当 年次	単 位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要				
							①	②	③	④	⑤
漢文学特論1	講義	2	2	日本の文学や文化と密接にかかわりのある漢詩文について解説するとともに、その作品が創作された背景や文学史上の意義などについて考察する。	1. 日本、中国の漢詩作品について正確に解説できる。 2. 漢文学の日本文学・日本文化への影響を理解する。	◎	◎				
漢文学特論2	講義	2	2	漢文学史のなかでもとくに重要な作品(『論語』や史書、詩文など)を中心に解説するとともに、その作品が創作された背景や文学史上の意義などについて考察する。	1. 漢詩文を正確に読解・解説できる。 2. 漢文学史の概要と作品の特徴を理解する。	◎	◎				
実用国語表現	演習	2・3	2	ビジネス文書や手紙文など、実生活のうえで必要となる文章作成について、その基礎的知識を獲得して実際の技能を修得する。	1.模範的文例や、よくある間違い例を分析・検討しつつ、実作できる。 2.TPOに応じた適切な文章をものする力を身につける。	○	○	◎	◎		
音声言語	演習	2・3	2	話し言葉の本質に関する知識を獲得するとともに、スピーチやディベートの技法を学び、実践的な訓練をとおして能力を修得する。また、落語や漫才などの『話芸』を分析して、音声を媒体とする表現について考察する。	1.話し言葉の本質を理解し、説明できる。 2.スピーチやディベートの技法を修得し、実践できる。 3. 音声を媒体とする表現活動について分析できる。	○	○	◎	◎		
天理図書館資料論(上代・中古)	演習	2・3	2	天理大学附属天理図書館が所蔵する古典籍(とくに上代文学・中古文学にかかわる資料)について、現物を閲覧・解読しながら資料の取り扱いや調査の方法を、実習をつうじて学ぶ。	1.古典籍(とくに上代文学・中古文学にかかわる資料)にかんする書誌学的な知識を修得する。 2.資料をただしく扱い、調査し、その内容を理解するとともに、文学的価値をみいだすことができる。	○	◎	◎			
天理図書館資料論(中世・近世)	演習	2・3	2	天理大学附属天理図書館が所蔵する古典籍(とくに中世文学・近世文学にかかわる資料)について、現物を閲覧・解読しながら資料の取り扱いや調査の方法を、実習をつうじて学ぶ。	1.古典籍(とくに中世文学・近世文学にかかわる資料)にかんする書誌学的な知識を修得する。 2.資料をただしく扱い、調査し、その内容を理解するとともに、文学的価値をみいだすことができる。	○	◎	◎			
大和の地域文化論(文学)	講義	2・3・4	2	文学史のなかにあつて大和地域がどのように表象され、どのような場として認知されてきたかを考察する。各時代の文学作品を具体的にとりあげ、日本文化における大和地域の果たした役割について考察する。	1.大和地域の文化にかんする知識を修得する。 2.大和地域に関連する作品の解釈をつうじて、日本文化における同地域の果たした役割について理解する力を身につける。	○	◎				
大和の地域文化論(言語)	講義	2・3・4	2	国語を歴史的にとらえるなかで大和地域のことばがどのように伝播し、その他の地域に影響をあたえたのか概観する。また、現代の大和地域の方言を具体的に取り扱い、その特質について考察する。	1.日本ならびに大和地域の方言にかんする知識を修得する。 2.大和地域の方言とその他の地域の方言とを比較し、ことばの影響関係について理解する力を身につける。	○	◎				
文章表現1	演習	3	2	文章を書くことに慣れるために、インタビュー記事などを作成する。創作活動は広告のコピーや随筆等を対象とし、段階的にスキルを修得し、最終的には各自の関心にしたがつて、1本の完成した小説を書きあげる。	1.文学作品について、作品の構造的な理解をふまえた深い関心を持ちつつ、音韻・修辞・構成といった言語表現の多様な側面を分析できる。 2.実作をつうじて、文学的な文章を創作する。	○	○	◎	◎		
文章表現2	演習	3	2	小説とはどういうものなのか、まず先輩の作品を読むところからイメージを作り、状況の分析、会話と地の文、テーマの設定、キャラクターの設定等について学び、期日までに作品を提出する。作品は多くの場合、3つのキーワードを含めて書くことを求める。	1.小説の創作を体験することによって、文学作品に主体的な関心を持ちつつ、最終的には各自の関心にしたがつて、1本の完成した小説を書きあげる。 2.小説という複雑・高度な存在を、さまざまな視点から分析できる。 3.実作をつうじて、文学的な文章を書く力を身につける。	○	○	◎	◎		
書道(書写を中心とする)	実習	2	1	書写教育の観点から、用具・用材に関する知識や姿勢、筆運びの基本を身につけ、楷書と行書についてその特徴を学ぶとともに、実際に執筆練習を行なう。	1. 書写に関する基本的な知識と技能を獲得する。 2. 書写指導者としての資質と態度を身につける。		○	○	◎		
国語科指導法1	講義	3	2	学習指導要領に即し、中学・高等学校国語科の教育課程の理論と実践を学ぶ。また、教材選択、学習指導案作成、模擬授業といった実践をとおして国語科の授業ができる基礎力をやしなひ、指導方法の技能を身につける。	1.国語科教育の目的や原理を学び、指導法の原理と実際を理解する。 2.教科書に掲載された言語教材等を分析して、教材化する能力を身につける。 3.作成した指導案にしたがひ、的確な発問や充実した板書により、模擬授業を進めることができる。	○	◎	◎			
国語科指導法2	講義	3	2	学習指導要領に即し、中学・高等学校国語科の教育課程の理論と実践を学ぶ。また、教材選択、学習指導案作成、模擬授業といった実践をとおして国語科の授業ができる基礎力をやしなひ、指導方法の技能を身につける。	1.国語科教育の目的や原理を学び、指導法の原理と実際を理解する。 2.教科書に掲載された教材を分析して、教材化する能力を身につける。 4.作成した指導案にしたがひ、的確な発問や充実した板書により、模擬授業を進めることができる。	○	◎	◎			
国語科指導法3	講義	3	2	学習指導要領に即し、中学校国語科の教育課程の理論と実践を学ぶ。また、教材選択、学習指導案作成、模擬授業といった実践をとおして国語科の授業ができる基礎力をやしなひ、指導方法の技能を身につける。	1.国語科教育の目的や原理を学び、指導法の原理と実際を理解する。 2.教科書に掲載された論理的文章の教材等を分析して、教材化する能力を身につける。 3.作成した指導案にしたがひ、的確な発問や充実した板書により、模擬授業を進めることができる。	○	◎	◎			

ディプロマ・ポリシー	次のような知識や能力を備えた学生に学士(国文学)の学位を授与します。 ①論理的に思考する力を身につけている(思考) ②日本の文学や言語に関する知識を身につけている(知識) ③コミュニケーション能力を身につけている(態度) ④新たなものを生み出す創造力を身につけている(創造) ⑤新たな知見の発信力を身につけている(行動)										
	科 目 名	授業形態	配当年次	単位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要				
							①	②	③	④	⑤
国語科指導法4	講義	3	2	学習指導要領に即し、中学校国語科の教育課程の理論と実践を学ぶ。また、教材選択、学習指導案作成、模擬授業といった実践をとおして国語科の授業ができる基礎力をやしなひ、指導方法の技能を身につける。	1.国語科教育の目的、原理、歴史を学び、指導法の原理と実際を理解する。 2.教科書に掲載された古典や漢文教材等を分析して、教材化する能力を身につける。 3.作成した指導案にしたがい、的確な発問や充実した板書により、模擬授業を進めることができる。	○	◎	◎			
卒業論文演習	演習	4	4	卒業論文を執筆するために必要な資料の収集・分析・解釈をおこない、独自の見解を論理的な文章によって執筆する。	1.資料の収集・集計・分析に関する技法を獲得するとともに、資料を解釈して独自の見解を構築する。 2.相互に批判しあうことによって、知見の完成度を高める。 3.論文の形式について知見を深める。	○	◎	○	◎	◎	
卒業論文	集中	4	6	国文学・国語学にかんする特定の問題について、先行研究を調べるとともに実証的にデータを収集し分析して、独自の見解を披露し発信する。	1.それぞれの問題意識に沿って、実証的で遺漏なき理論を構築する。 2. 達意の文章によって自らの理論を発信する。	○	◎	○	◎	◎	